



はじめに（平成 18 年 6 月定例会）

まず、最初に、4 日前に起きました、周南市の土砂崩れ災害について、一言申し上げさせていただきます。

お手元に現場の写真と図面を配付させて頂いております。土砂崩れが起こった現場は、私の住んでおります櫛浜地区内の大島居守という所で、大華山の麓にあたります。災害現場は、いろいろな課題を抱えた山で、以前から、崩落が繰り返されてきた所であります。

しかし、幅 40m、高さ 50m にも及ぶ大きな崩落は初めての事で、埋まった県道の先の半島には、998 世帯 2,337 人の方が暮らしておられますし、従業員約 280 人の日本精蠟の工場や知的障害者施設「白鳩学園」もあります。

今回の災害で、県道が全面通行止めとなったために、企業、施設をはじめ、多くの住民は、生活を脅かされ、そして不安な日々を過ごしておられます。私も、災害発生以来、現場には何度も足を運び、そして住民の皆さんの声もお聞きし、なかなか眠れない日が続きました。

現場は、さらに崩落する危険があるような、難しい状況にありますが、一刻も早い日常生活の確保に向け、県におかれては、昨日から、仮設道路及び仮橋の設置の復旧工事にとりかかって頂き、企業や施設関係者をはじめ、住民も大喜びでございます。私は、崩落現場で夜中まで働いてくださる方々や関係の皆様方に、二次的な災害が起こらないことを心から祈っております。

また、災害の発生が、小学生の下校時間に当たる午後 3 時すぎという時間にもかかわらず、一人のけが人も出なかったというのも不幸中の幸いでしたが、この陰には近所にお住まいの方々の適切な判断や配慮がありました。

近所の方々は、当日の朝から、山の様子がいつもと違うと感じ、ずっと観察されていましたが、下校時間が近づいた頃、大島地区から 55 人の児童が通う櫛浜小学校の先生に、「今日は危ないから子ども達だけで、この道を通らせないで」と伝えられたことが、結果的に、多くの小学生の生命を救ったということ、この場で、ご披露をさせていただきます。

そして、周南市はもとより、昼夜を問わず災害対応されております、県の土木建築部や防災危機管理課、また、早速、災害対策地方連絡本部を立ち上げられた周南の各出先機関において、災害対策に全力で取り組んで頂いております皆様方に、地区住民の一人としても、心から感謝申し上げます。大変ご苦勞をおかけいたしますが、復旧に向けて、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。」

知事答弁

このたびの災害につきましては、現在、全力を挙げて復旧に向けて取り組んでおります。私も明日、周南市大島地区の土砂崩れの現地を視察し、万全の対応を図ってまいりたいと考えております。